

石井立が遺したものの

— 編集者としての喜びは《できるかぎりよき本》をつくること —

ひまわり
よき本に
つくりあげよう



晩年の太宰治を担当した筑摩書房の編集者石井立の約 300 点に及ぶ資料が、「石井立文庫」として三鷹市に寄贈されました。

駆け出しの編集者の時期に太宰治という流行作家の担当となり、太宰の死を衝撃を以て受け止め、そこから多くを学びながら編集人生を全うした石井立の姿を、最晩年の太宰治の活動とともに紹介します。

太宰治展示室
三鷹の此の小さい家

2024

8/27 tue

~ 12/1 sun

10:00 ~ 18:00

休館日 9月2、9、11、12、17、18、24、25、30日
10月7、15~17、21~25、28日
11月5、6、11、18、25日

協力 筑摩書房

監修 安藤宏

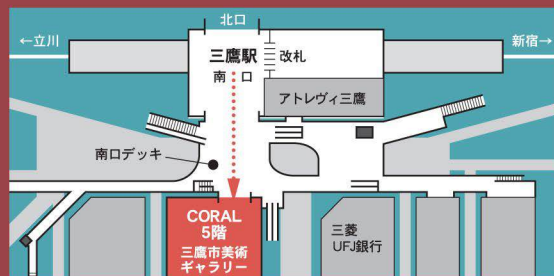
観覧料 無料

会場 三鷹市美術ギャラリー

太宰治展示室 三鷹の此の小さい家 企画展示室

三鷹市下連雀3-35-1 CORAL 5階

TEL:0422-79-0033



三鷹市美術ギャラリー 太宰治展示室

I 『井伏鱒二選集』の真^{まこと}

終戦後、三鷹に戻った太宰治は師のために『井伏鱒二選集』の刊行を企図しましたが、第四巻後記を遺して帰らぬ人となり、全巻の刊行を見届けることはありませんでした。

また、太宰の晩年に囁かれる井伏との確執については、この選集が深くかかわっていることが指摘されています。本章では、著者の井伏と選者である太宰の意向が食い違いをみせていた事実関係を語る資料を中心に、石井立宛の太宰の署名入初版本などの自筆資料を公開します。

- 1 石井立宛 太宰治『斜陽』 昭和22年12月 新潮社**
太宰が石井のために、扉頁にダンテの言葉を記した献呈本。
- 2 「斜陽」映画化委任状無効の記 昭和23年3月12日**
石井が勤める筑摩書房の原稿用紙に書かれた「斜陽」映画化に関する書面。
- 3 井伏鱒二 石井立宛書簡 昭和23年3月15日**
太宰が選者を務める『井伏鱒二選集』から、「たま虫を見る」を削除するよう著者の井伏が石井に懇願している。
- 4 川端龍子『井伏鱒二選集』題字 昭和22年**
『井伏鱒二選集』の題字は日本画家川端龍子書いた。「石井立文庫」にはこれに関する石井立宛の書簡も三通残る。



II 編集者としての喜び — 《できるかぎりよき本》をつくること—

「石井立文庫」には、太宰文学を後世に伝えるために様々な分野で力を尽くした石井立の姿と、作家たちとの信頼関係がうかがえる資料が遺されています。

本章では、太宰治の死後も編集の仕事に心血を注ぎ、《できるかぎりよき本》を世に出すことを信念とした石井立が40歳という若さにして亡くなるまでの活動に光を当てます。太宰治だけでなく、井伏鱒二、小山清、三浦哲郎ら^{そうそう}錚々たる作家たちと交わした書簡や葉書などにもご注目ください。



- 1 井伏鱒二 石井立宛葉書 昭和23年8月3日**
石井立の編集者としての慧眼を見込んで、井伏が作品選定をお願いしている。
- 2 小山清 石井立宛葉書 昭和29年9月14日**
石井の勤める筑摩書房創設者 古田晁が太宰治全集の刊行を企画していることの報告。
- 3 三浦哲郎 石井立宛書簡 昭和34年5月12日**
鎌倉の額田保養院で療養中の石井を心配した三浦。ここから性根を据えて小説を書くこと決意表明し、三浦は翌々年芥川賞を受賞。
- 4 石井立作 太宰治蟹田文学碑除幕式アルバムと記念写真**
美知子夫人と長女園子、井伏鱒二、檀一雄、中村貞次郎の挨拶など、昭和30年8月6日の除幕の様子が残されている。